

IBM Watson Studio Enterprise

本「サービス記述書」は「クラウド・サービス」について規定するものです。適用できる注文関連文書には、お客様の発注に関する価格設定および追加的な詳細情報が記載されています。

1. クラウド・サービス

1.1 オファリング

お客様は、利用可能な以下のオファリングから選択することができます。

1.1.1 IBM Watson Studio Enterprise

Watson Studio Enterprise は統合開発環境であり、データ・サイエンティストの生産性向上を支援するように設計されたツールと機能をまとめたスイートを提供します。

本「クラウド・サービス」により、お客様は、構成済みの協業環境で、RStudio、Jupyter ノートブック、SPSS Modeler、Data Refinery およびその他のツールを使用してデータを分析できます。

RStudio はこのオファリングに組み込まれており、R と連携するための開発環境を提供します。

本「クラウド・サービス」では以下を行います。

- Jupyter ノートブックを提供します。これは、対話式コンピューティング用の Web ベース環境です。お客様は、データを処理するコードの小さい断片を実行してから、ノートブック内でその計算結果を表示することができます。
- 「プロジェクト」が含まれています。これにより、お客様はノートブック、データ・セット、記事、モデル、および分析作業ストリームに関するコラボレーターのチームを正しい方向に向かわせることができます。
- サンプリングおよびプロファイル作成とともに、データ・フロー実行機能を含む「プロジェクト」を作成する機能を提供します。
- お客様には1つの「インスタンス」、5名の「許可ユーザー」および5,000の「キャパシティー・ユニット - 時間」の資格が付与されます。

IBM Cloud は、Watson Studio Enterprise サービスを利用するための技術的な前提条件になります。新規ユーザーは、オンライン登録フォーム (<https://console.ng.bluemix.net/registration/>) によりアクセス登録ができます。

1.2 オプション・サービス

1.2.1 IBM Watson Studio Enterprise Additional Authorized User

このオファリングにより、お客様は、「クラウド・サービス」に対する追加の「許可ユーザー」の使用許諾を取得できます。

1.2.2 IBM Watson Studio Enterprise Bundle

このオファリングにより、お客様は、「クラウド・サービス」に対する追加の1,000の「キャパシティー・ユニット - 時間」の使用許諾を取得できます。

2. データ処理およびデータ保護に関するデータ・シート

IBM のデータ処理補足契約書 (<http://ibm.com/dpa> に公開。「DPA」)のほか、以下のリンクの「データ処理およびデータ保護に関するデータ・シート」(データ・シートまたは「DPA 別表」)にも、「クラウド・サービス」およびそのオプション(処理対象の「コンテンツ」の種類、対象となる処理活動、データ保護機能、および「コンテンツ」の保存および返却についての仕様に関連)に関する追加的なデータ保護情報が記載されています。DPA は、i) EU 一般データ保護規則 (EU/2016/679) (GDPR)、または ii)

<http://www.ibm.com/dpa/dpl>に記載されているその他のデータ保護法が適用される場合に、その適用範囲に限り、「コンテンツ」に含まれる個人データに適用されます。

<https://www.ibm.com/software/reports/compatibility/clarity-reports/report/html/softwareReqsForProduct?deliverableId=6B5148E0537F11E6865BC3F213DB63F7>

3. サービス・レベルおよびテクニカル・サポート

3.1 サービス・レベル・アグリーメント

IBM は、以下の可用性のサービス・レベル・アグリーメント (以下「SLA」といいます。) をお客様に提供します。IBM は、下表のとおり、「クラウド・サービス」の累積的な可用性に基づき、適用しうる最大の補償を適用します。「可用性」は、契約月における分単位の総時間数から、契約月における「サービス・ダウン」の分単位の総時間数を差し引き、それを契約月における分単位の総時間数で除することにより算出され、結果はパーセントで表します。「サービス・ダウン」の定義、請求のプロセス、サービスの可用性の問題に関して IBM に連絡する方法については、IBM の「クラウド・サービス」のサポート・ハンドブック (https://www.ibm.com/software/support/saas_support_overview.html) に掲載されています。

可用性 - 高可用性の Public 環境 または複数の Dedicated/Local 環境	可用性 - その他の環境	クレジット (月額サブスクリプション料金の パーセント*)
99.95% 未満	99.5%	10%
99.9% 未満	99.0%	25%

*サブスクリプション料金は、請求対象月に関して約定した料金です。

3.2 テクニカル・サポート

「クラウド・サービス」のテクニカル・サポート (サポート窓口の連絡先情報、重大度レベル、サポート利用可能時間、応答時間、その他のサポート情報およびサポート・プロセスなど) を参照するには、IBM サポート・ガイド (<https://www.ibm.com/support/home/pages/support-guide/>) の「クラウド・サービス」を選択します。

4. 料金

4.1 課金単位

「クラウド・サービス」の課金単位は、「取引文書」に記載されます。

以下の課金単位が本「クラウド・サービス」に適用されます。

- 「許可ユーザー」とは、直接または間接のいかなる方法においても (例えば、多重化プログラム、デバイスまたはアプリケーション・サーバーを通じて) 「クラウド・サービス」へのアクセス権限を付与されている特定のユーザーを指します。
- 「インスタンス」は、「クラウド・サービス」の特定の構成への各アクセスを意味します。
- 「キャパシティー・ユニット - 時間」は、選択したキャパシティー・タイプの「クラウド・サービス」の使用時間を、そのキャパシティー・タイプに対して指定された必要なキャパシティー・ユニット数に乗じたものです。

本「クラウド・サービス」においては、「キャパシティー・タイプ」が開始される都度、「キャパシティー・ユニット時間」の最小値である 0.16 が適用されます。

キャパシティー・タイプ	1 時間ごとに必要なキャパシティー・ユニット
1x4 = 1 vCPU および 4 GB RAM	0.5
2x8 = 2 vCPU および 8 GB RAM	1
3x12 = 3 vCPU および 12 GB RAM	1.5
4x16 = 4 vCPU および 16 GB RAM	2

キャパシティー・タイプ	1時間ごとに必要なキャパシティー・ユニット
8x32 = 8 vCPU および 32 GB RAM	4
16x64 = 16 vCPU および 64 GB RAM	8

5. 追加条件

2019年1月1日より前に締結されるクラウド・サービス契約書(または同等のクラウド基本契約)については、<https://www.ibm.com/acs>に掲載されている条件を適用します。

5.1 HIPAA

Health Insurance Portability and Accountability Act of 1996 (医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律、以下「HIPAA」といいます。)および本「クラウド・サービス」で「医療情報」および「医療」データを「個人データの種類」および「個人データの特殊カテゴリー」(以下総称して「医療データ」といいます。)またはそのいずれかの許可される使用に関して、本「クラウド・サービス」の「データ・シート」に記載された情報にかかわらず、本「クラウド・サービス」による「医療データ」の使用には以下の制限事項および条件が適用されます。

以下のオファリングのみが、「医療データ」の使用に関する「HIPAA プライバシーおよびセキュリティ規則」に基づいて求められる制御を実装するために実施されるプロビジョンの対象です。

- IBM Watson Studio Enterprise

上記のオファリングに限り、お客様が IBM に、お客様が「クラウド・サービス」で「医療データ」を使用することを事前に通知し、IBM が書面により、「クラウド・サービス」が「医療データ」の使用のためにプロビジョニングされることを確認した場合に、「医療データ」の使用に対して「HIPAA プライバシーおよびセキュリティ規則」の制御が実現されるようにプロビジョニングすることができます。したがって、「クラウド・サービス」は、HIPAA に基づいて保護されている「医療データ」の伝送、保管、またはその他の使用のために使用することはできません。ただし、(i) お客様が IBM にかかる通知を提供する場合、(ii) IBM とお客様が適用される「事業提携契約」を締結している場合、および (iii) IBM がお客様に「クラウド・サービス」を「医療データ」と併用できる旨の明示的な確認書を提供する場合は、この限りではありません。

いかなる場合も、HIPAA の意義の範囲内で医療情報センターとして「PHI」を処理するために「クラウド・サービス」を使用しないものとします。